



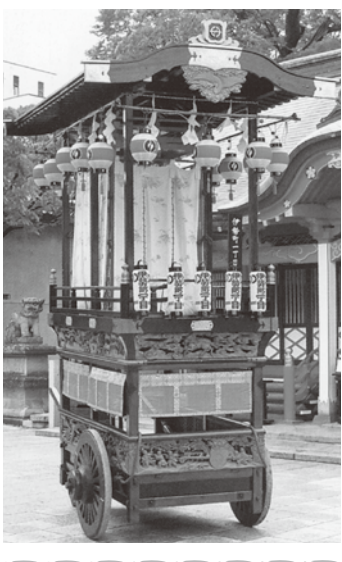
令和3年9月1日現在
世帯数 : 841世帯
人口 : 1529人
男 : 735人
女 : 794人

松本市重要有形民俗文化財
松本城下町の舞台 シリーズ⑩
『伊勢町二丁目 舞台の由来と特徴』

最初の舞台は、江戸時代末期の慶応年間の頃制作されたと伝えられています。天神様の祭礼には伊勢町より曳行されていましたが、明治初年頃道路が改修されたことに伴い、大型舞台の曳行が禁止というお触れが、出されたため、天神様にあつた宝蔵庫に保存されていた舞台を、下波田村の氏子に売り渡したということです。



現存する舞台は、明治26年の町会の記録に、舞台修理に関する記事があり、それ以前の建造である事がわかります。制作者は不詳。構造の特徴は、前二輪、後ろ一輪の三輪車。二階に櫓を載せる二層構成です。唐破風造り屋根付、垂れ幕囲いの朱塗り、上層前部は踊り舞台型構造で三輪形式を残した古式の舞台です。基本構造は、本町四丁目、五丁目舞台と同じで簡素な舞台です。



装飾の木彫刻は上部は、全部旧字で「龍」「鳳」「麟」「亀」などの霊獣、下部には、「唐子遊び」「高砂」「鶴亀」「七福神」原型は従格子囲いです。

- 近年の改修記録によれば、昭和51年…総点検、ゆがみの修理
- 昭和63年…小車輪修理
- 平成元年…大車輪の修理及びシヤフトの取り替え
- 平成10年…解体大修理と仮屋根より唐破風飾り屋根に変更し、下部の彫刻が取り付けられた(取り外し復旧可能)

昭和20年ごろまでは、乗れるのは小学生の男子だけで二階までいっぱいでした。その後、子どもが減ってきて昭和30年代には女子も舞台上に乗るようになりました。松本深志の舞台は16台です。これらの舞台が町の宝として、市の宝として、また誇りとして維持管理していくことは大変ですが、末永く引き継いでいきたいものです。

Presented by 視聴覚委員会

まちかどフォト ~夏の風物詩編~



松本ぼんぼん (令和元年)



青山様、ぼんぼん (令和元年)

【コロナ禍で2年連続中止となってしまう夏の風物詩再開が待ち遠しい限りです!】

女鳥羽川の歴史

松本市街の中心を流れる女鳥羽川。以前、けっこう汚れていた時期もありましたが、現在は清流が戻り、魚が悠々泳ぎ、水鳥なんかも帰ってきています。河岸も整備され、風情もあつてなかなかいい川です。

松本藩の将軍家への献上品の中にも鮭が入っていたとのこと。ちなみに、女鳥羽川の鮭の遡上の最後の記録は昭和11年だったそうです。

この女鳥羽川、中流の川床から縄文時代の遺跡も発見され、太古からの歴史も秘めています。戦国後期、武田氏が松本城の外堀とするために女鳥羽川の流れを変えて現在に至っているという説もあります。過去幾多の洪水を起こしましたが、今は落ち着いたようです。

歴史といえば、女鳥羽川にはかつて大量の鮭が遡上してきていたのは知る人ぞ知るところ。平安時代から信濃川・千曲川は全国屈指の鮭の産地で、上流の松本や上田まで数万尾の鮭が遡上していました。昭和10年代にダムなどで、鮭の遡上・降河が断たれてしまいました。平安初期に書かれた「延喜式」には、信濃国より大和朝廷への鮭の献上記録が多く残されています。

「女鳥羽川」という名の云われの一つは、昔「大村」の東の「堂田」といわれる地に大寺があり、そのお堂を維持するために税を免除された「免田」があり、そこを流れ下っていたので

「御堂田川（みどうだがわ）」とよばれ、それがなまって「めとうだがわ」、さらに「めとばがわ」といわれるようになったという説。

もう一つは、水野家三代忠直が現在玄向寺の裏山に父忠職（ただもと）の廟所を作り、その際廟所の上流に京都清水寺の「音羽（おとわ）の滝」に擬して「女鳥羽の滝」を作り、このときより、御堂田川は女鳥羽の滝から流れ出る水が流れ下る川ということで「女鳥羽川」に変わったという説。

数々の歴史を秘めて松本の



春：桜と女鳥羽川

街を流れ続ける女鳥羽川。絶滅したカジカガエルが一年、また戻ってきたのが確認されました。よいものはどんな蘇ってもらいたいものですね。

電車通り

Tokyo 2020 オリンピックは8月8日閉会式を迎え、大会としては、成功したといえる。

日本は金メダル27個、銀メダル14個、銅メダル17個、合計58個と過去最多となった。

この中で、今まで挑戦しても跳ね返され取れなかった競技で、また新たに加わった競技で、メダルが取れたなど、新しい潮流がめばえている。

これだけのパナデミックスの逆風にも関わらずオリンピックを開催した。そして大会関係者のルール破り、またルールの曖昧さも問題となった。しかしルール破りは、予想されていたが、想定を下回ったとのこと。

それよりも、このオリンピックに挑み、挑戦してきた選手及び関係者の活躍が、画面を通して感動となり、また選手の世代交代が起きつつあると、しみじみ感じた所である。

またその後開催されたパラリンピック後は、これらの施設活用に焦点が移る。新競技で大活躍のスケートボード会場は、これからも選手育成のため、恒久施設として残していく検討をしているとの事である。

令和3年度公民館委員

【公民館運営委員会】

(委員長) 田中 修 (副委員長) 犬飼 陽一
春日 孝介、田内 正一、分部 由里、中畑 幸子
伊藤 峯一、原 昌子、真島 富男、村山 孝幸
村山 さえ子

【館報委員会】

(委員長) 田内 正一 (副委員長) 横沢 敏
岩原 正勲、山内 敦子、伊藤 善立、白井 充子
山口 はるな

【視聴覚委員会】

(委員長) 分部 由里 (顧問) 宮島 幹治
山崎 眞生夫、長崎 俊夫、有江 一記、駒形 勝子
永井 昭、伊藤 善立、佐久間 まゆみ

【文化委員会】

(委員長) 中畑 幸子 (副委員長) 神木 笑子
内藤 英昭、中原 啓、川上 修介、田中 博
犬飼 陽一、深澤 健能、寺沢 厚子、塩原 信一
安部 芳樹、太田 智子、太田 千代子、村山 孝幸
吉山 世子、山田 愛結、滝口 知美

(順不同、敬称略)